

JIFAS & 海洋政策研究財団

(シップ・アンド・オーシャン財団)

共同研究開発がスタート／実用化（事業化）に向かって

財団法人シップ・アンド・オーシャン財団とJIFASの関係は、平成10年同財団の依頼にて「沿岸地域における海洋汚染防止に関する調査研究」の調査報告書を提出したことに始まります。

この報告書のはじめに「当財団では、最近、海洋環境汚染が深刻な問題となっていることから、我が国の海洋環境の現状調査を行うと共に、海洋汚染防止対策の観点から汚染源の一因とされている魚の養殖の現状調査及び海外における養殖の新技术に関する調査を行った。

また、海面養殖に代わり、海を汚さない循環式陸上養殖技術について調査を行うと共に、海洋汚染の一因となっているハマチ、タイについての循環式陸上養殖装置の概念設計を行った。

本報告書は、それらの成果をまとめたものである。この報告書が我が国沿岸海域の海洋汚染防止及び陸上養殖技術の推進に有効に活用されれば幸いである。」と結んでいる。

今般開始される共同研究の目的は、従来いわれてきた、「閉鎖循環式陸上養殖は、環境にはやさしいが設備投資額が大きい」という声に応え、大幅にコストダウンをはかるシス

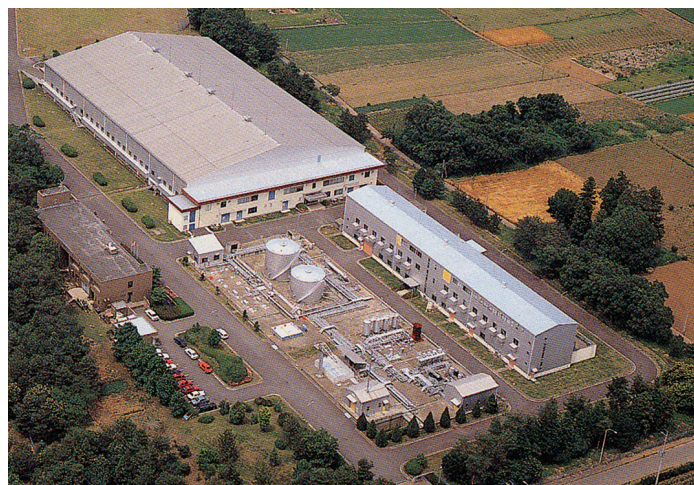
テムの完成です。

実用化のスタートとして、「小規模陸上養殖システム」の開発に着手します。本技術は、JIFASが長年にわたって研究開発を進めてきたデータ集積による、現代における究極の技術です。

消費者は、安心、安全、トレサビリティーを望んでいる昨今、その生産物は地産地消を目指し、設備はHACCP対応にします。

本会は、「安全養殖委員会」を設立して、その開発を目指します。

そして、その成果を関係各位に広く公開していきます。



研究開発場所：
シップ・アンド・オーシャン財団 筑波研究所